

学校教育目標	子どもたちがともに学び、創り出し、行動することができるようにします。～輝く自分 輝く鶴小～ ○学ぶ楽しさと創り出す喜びを味わう子を育てます。(知) ○規範意識をもち、他者を尊敬できる子を育てます。(徳) ○自他の生命や健康を大切にできる子を育てます。(体) ○地域に学び、地域に働きかけることができる子を育てます。(公) ○さまざまな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)				
	学校概要	創立 68 周年	学校長 渡辺 正規	副校長 和田 恭子	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 5
児童生徒数: 585 人		主な関係校: 西谷中 本宿中 鶴ヶ峯中			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	西谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> 〈自分づくりに関する力〉 ○好奇心 主体性・積極性 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢 ○意思決定する力 ○自分の考えを深化させる力 ○リーダーシップをとる力 ○自己肯定感 	西谷中学校 市沢小学校 川島小学校 鶴ヶ峯小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○自分も他の人も大切にし、人と社会につながる子ども ○自分の考えを表現し、ともに学び合う子ども ・小中一貫教育研究会の実施 ・定期的な情報交換(ブロック内児童支援専任と生徒指導専任の協議会、教務主任会、新入生に関わる情報交換) ・児童生徒の交流(中学校での授業見学、部活動体験など) ・教員の交流(年間3回)の小学校の授業参観

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権を守り、安心して豊かに学校生活を送れるようにします。 ・基礎・基本を確実に身につけるとともに、主体的な行動を支える資質能力を育てます。 ・児童支援専任を中心とした組織的な児童指導を行います。 ・教職員の専門性の向上を目指し、チームとしての組織的な学校運営を進めます。 ・家庭・地域との連携を深め、開かれた学校づくりを行います。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①基礎・基本を大切に、知識・技能の定着を図り、主体的に対話的な学習を通して思考力・判断力を高め、豊かに表現する子の育成を図る。 ②技能教科を中心に教科担任制を積極的に取り入れ、質の高い授業を通じて学習意欲を高めると共に、個々の力を伸ばす。 ③ICT機器を積極的に活用し、学習の定着を図る。
担当	重点研・教務・情報	
徳	豊かな心	①たてわり活動の取組等を通して、協力する心や相手を思いやる気持ちを育てる。 ②特別な教科道徳を通して、自他のよさを認め、よりよい生き方を考えようとする子どもの育成に努める。 ③人権週間の取組で、多様な立場の人の理解を深める学習を行い、人権意識を育てる。
担当	あひる班・道徳・人権福祉	
体	健やかな体	①体育学習の充実を図る。 ②養護教諭と栄養教諭と連携し、健やかな体づくりと食に関する指導の実践を図る。 ③掃除等を通してきれいな環境づくりに努める。
担当	体育・保健・食育	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①体験的な活動を積極的に取り入れた学習を進める。他者と関わり合うことで、自尊感情を高めていく。 ②自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自分の変容や成長を自己評価できるように「キャリアパスポート」等を活用する。
担当	教務・特活	
教科重点研究		①「基礎学力と指導力アップで児童も教師も輝こう」をテーマに「国語」について研究を進める。 ②MIMIについて学習する機会を設ける。 ③個別最適化の学びと協働的な学びという観点をもとに授業づくりを心掛け、全員が手ごたえがもてる、楽しいものとする。 ④校内で、パワアタイムを実施し、教師が主体的に学び、それを還元していく体制をつくる。
担当	重点研	
いじめへの対応		①アンケートの回数を見直すとともに、定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、いじめ未然防止に努め、積極的に認知する。 ②児童委員会の活動やこども会議を通し児童間でのいじめ防止に対する意識を醸成していく。 ③いじめ防止研修を実施し、些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当	いじめ防止対策委員会	
特別支援教育		①インクルーシブ教育を推進する。個別支援学級、特別支援教室、国際教室の充実を図りつつ、一般学級との交流を深める。 ②支援の必要な子どもへの合理的配慮を行う。登校渋り等の児童に対して組織的に対応する。 ③誰もが安心して学校生活を送れるように、人権意識を高める。
担当	特別支援教育コーディネーター	
児童指導		①定期的に子どもの様子を共有し、必要な子どもには全職員で指導・支援にあたるようにする。 ②Y-Pアセスメントを活用し、多面的に児童理解と具体的な支援・指導を行う。 ③「鶴小スタンダード」を児童の考えを取り入れつつ実態に合ったものに更新し、児童・教職員が共通理解をしながら活用できるようにしていく。
担当	児童指導	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①教務会・企画会のめあてを明確にし、それぞれの視点から学校経営に積極的に参画できるようにする。 ②学年研の充実を図り、経験の浅い職員の能力を引き出す。 ③全職員の強みを生かして仕事を進められるよう、風通しの良い組織づくりに努める。 ④会議のもち方の工夫やICTを活用することなど、業務の軽減を図り、働き方改革を進める。
担当	メンター研・教務会・企画会・学年会	